

Event 10月8日 日 TOYAMAキラリ2階ロビー

イベント

第一部 13:00 -
富山映像大賞記念トークショー
「共に生きる」
伊東順二、大崎洋、宮澤正明、本木克英

第二部 14:45 -
MACHIMEGURI TOYAMAとのコラボ企画
富山の魅力発信! SNS動画コンペ

第一部 富山映像大賞記念トークショー「共に生きる」

[ゲスト]



大崎洋

[一般社団法人 mother ha.ha 代表理事]

1978年吉本興業株式会社に入社。多くのタレントのマネージャーを担当し、音楽・出版事業、スポーツマネジメント事業、デジタルコンテンツ事業、映画事業などの新規事業を立ち上げる。2009年代表取締役社長に就任。2019年に代表取締役会長に就任。2023年6月代表取締役会長を退任。2023年5月大阪・関西万博催事検討会議共同座長に就任。また、公益社団法人「2025年日本国際博覧会協会」シニアアドバイザーも務める。現在、一般社団法人 mother ha.haを設立し代表理事に就任。



宮澤正明

[写真家・映画監督]

1960年東京都生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業。広告、雑誌、PV、CM、ファッションの分野でも幅広く活動し、人物写真では作家伊集院静、市川圓十郎、松井秀喜、武豊、羽生善治、など時代を代表する人々を撮影し、菅野美穂はじめ写真集は150冊を超える。映像作家として、伊勢神宮の森をテーマにしたドキュメンタリー映画『うみやまあひだ〜伊勢神宮の森から響くメッセージ〜』を初監督。2015年マドリッド国際映画祭にて外国語ドキュメンタリー部門最優秀作品賞他の2冠に輝く。2023年ドキュメンタリー映画「共に生きる 書家金澤翔子」を監督。

[コーディネーター] 伊東順二、本木克英

第二部 富山の魅力発信! SNS動画コンペ



11月3日から開催予定のとやまの都市型フェスティバル「MACHIMEGURI TOYAMA」とのコラボ企画。富山のまちで「シアワセなコト」を探す富山の歩き方を、デザイン専攻学生がSNS動画によって表現。全6チームの中から富山の魅力を最も発信できたチームを決めるコンペを開催します。身近にある隠れた富山の魅力を動画によって再発見!

MC



ノビ山本 ハハハ賞特別審査員

[吉本興業株式会社 よしもと富山県住みます芸人]

魚津市出身。吉本NSC東京校6期入学後都内での芸人活動を経て2019年7月よしもと富山県住みます芸人 就任。県内地上波、ケーブルテレビレポーターとして活躍中。また温泉ソムリエの資格を活かし県内外の温泉施設にて熟練師活動、レクリエーション介護士2級も有しパルーンアートを用いたイベント出演は老若男女問わず好評。Tシャツ・スニーカーマニアでもあり、YouTubeチャンネル「ノビ山本のトヤマンボウちゃんねる」も密かに人気上昇中。富山映像大賞2023ではハハハ賞の特別審査員も務める。



大野侑美

[W.V.A/富山舞台 俳優]

1990年3月4日生まれ。射水市出身。2021年より俳優養成講座W.V.Aで演劇の指導を受け、演劇集団富山舞台に所属。2023年1月には舞台「水星の一日」(演出・西村まさ彦)で主演を務める。介護の専門学校に通いながら、八尾にて定期的に朗読会を行うなど精力的に活動中。好きな食べ物はオムライス、蜜柑。

Prime Theater 11月4日 土 「富山映像大賞2023」受賞作品等の上映

プライムシアター

10:00~12:00

場所 J MAX THEATERとやま

主催:富山映像大賞運営コンソーシアム、富山市
富山映像大賞総合プロデューサー:伊東順二
協賛:銀座ダイヤモンドシライシ 富山本店、サクラボックス(株)、正栄グループ、NIX JAPAN(株)、吉本興業ホールディングス(株)、(株)アトム

協力:J MAX THEATERとやま、富山県映像関連事業者協会、富山大学芸術文化学部、ラックプロ(株)
会場構成:富山大学芸術文化学部横山天心研究室+学生有志

お問い合わせ 富山映像大賞運営事務局
〒930-8510
富山市新桜町7番38号 富山市まちづくり推進課内
TEL.076-443-2054(平日9時から17時)

[公式webサイト お問い合わせフォーム]
<http://www.thinktoyama.jp/contact/>



TOYAMA MEDIA ART
INTERNATIONAL TRIENNALE



富山映像大賞



受賞作品発表 & 授賞式

日時 2023年10月8日 日 13:00 ▶ 16:30

場所 TOYAMAキラリ2階ロビー 入場無料

プロフェッショナルコース

いのち
One Life

市民向けコース

ファミリー
Family

公募
テーマ

主催:富山映像大賞運営コンソーシアム、富山市

富山映像大賞総合プロデューサー:伊東順二

協賛:銀座ダイヤモンドシライシ 富山本店、サクラボックス(株)、正栄グループ、NIX JAPAN(株)、吉本興業ホールディングス(株)、(株)アトム

協力:J MAX THEATERとやま、富山県映像関連事業者協会、富山大学芸術文化学部、ラックプロ(株)

会場構成:富山大学芸術文化学部横山天心研究室+学生有志

公式Webサイト



富山映像大賞 授賞式

TOYAMA MEDIA ART INTERNATIONAL TRIENNALE 2023

10月8日 日

YouTubeの「富山映像大賞」チャンネルにて
ライブ配信を行います！
ご自宅からの視聴も可能です。



Timetable

- 12:30 - 開場
- 13:00 - 富山映像大賞記念トークショー「共に生きる」
伊東順二、大崎洋、宮澤正明、本木克英
- 13:45 - ノミネート作品上映
- 14:45 - MACHIMEGURI TOYAMAとのコラボ企画
富山の魅力発信！SNS動画コンペ
- 15:20 - 授賞式

最終審査員

※五十音順、敬称略



©Lorenzo Barassi x 伊いTOMO

伊東順二

〔富山映像大賞総合プロデューサー〕

1953年長崎県生まれ。アート・プロデューサー、プロジェクト・プランナーとして、展覧会企画、アート、音楽、建築、都市計画など分野を超えたプロデュースを多数手がける。'95年「ベニス・ビエンナーレ」日本館コミッショナー。'02年仏政府「芸術文化勲章（シュヴァリエ）」受章。'00年～'01年「文化庁メディア芸術祭企画展」プロデューサー。'04年～'07年長崎県美術館館長。'04年～'13年3月富山大学教授。'08年～'12年「金屋町楽市」プロデューサー。'13年～'23年3月東京藝術大学特任教授。パリ日本文化会館運営審議委員。富山市ガラス美術館名誉館長。富山市政策参与。富山県文化審議会委員。



中田まほろ

〔一般財団法人JR東日本文化創造財団 TAKANAWA GATEWAY CITY 文化創造棟準備室長〕

2025年大阪・関西万博テーマ事業シグネチャーパビリオン「いのちの未来」企画統括。知と美が融合する公共の場づくりを目指し、JR東日本で文化施設の立ち上げに参画する傍ら、国内外のミュージアムにてアドバイザー、コミッショナー等を務める。2002年-2020年日本科学未来館勤務。科学とアートやデザインを融合した、数多くの企画展、常設展の開発に従事。Barbican Centerゲストキュレーター、グッドデザイン賞審査委員等。



島敦彦

〔国立国際美術館 館長〕

1956年富山県生まれ、1980年早稲田大学工学部金属工学科卒業。1980年4月より建設準備室を経て富山県立近代美術館に勤務した後、1992年1月より国立国際美術館（大阪）に移り、2013年10月より同館副館長兼学芸課長となる。2015年4月より愛知県美術館館長、2017年4月より2021年3月まで、金沢21世紀美術館館長を務め、2021年4月より、現職。



タニノクロウ

〔庭劇団ベニノ主宰/劇作・演出家〕

1976年富山県出身。庭劇団ベニノの主宰、劇作・演出家。2000年医学部在学中に庭劇団ベニノを旗揚げ。以降全作品の脚本・演出を手掛ける。ヨーロッパを中心に、国内外の主要な演劇祭に多数招聘。「地獄谷温泉 無明ノ宿」にて第60回岸田國士戯曲賞受賞、北日本新聞芸術選奨受賞、第71回文化庁芸術祭優秀賞受賞。2018年富山ひまわり賞、2019年第36回とやま賞文化・芸術部門受賞。2022年より富山市政策参与に就任。

一次審査員

金子憲顕〔J MAX THEATERとやま 支配人〕

福田敬嗣〔富山県映像関連事業社協会/ラックプロ(株)代表取締役社長〕

高橋由佳〔富山市学芸員〕

渡部名祐子〔富山市学芸員〕

野村知範〔富山市まちづくり推進課長〕

Concept 伊東順二〔富山映像大賞総合プロデューサー〕

プロフェッショナルコース

いのち One Life

市民向けコース

ファミリー Family

毎日、毎日メディアで目にするのははかない命の物語。コロナ禍、戦争、犯罪。まるで消費される情報のように記号が如く消えていく。人間だけではない。自分達のせいでもない環境の劣化で息絶えていく動物たち。けれども消えゆく者たちの声は聞こえない。地球を守ろう。One Life、すべて一つの命と考えれば、私たちの命が日々削られていることが実感として湧き上がってくる。

家族という言葉に感動を覚えなくなってどれほど経つだろう。故郷という言葉と同じくらいかも知れない。しかしそれに比例するように人間も環境も壊れていった気がするのは私だけだろうか？必ず理解できるつながりを持つ者たちが織りなす多様性の実現。家族は私たちの心の可能性を拡張する一番小さくて大切なユニットだと思う。日本の故郷にふさわしい緑と山と水に囲まれた富山から人の繋がりの素晴らしさをぜひ発信してほしい。

贈賞内容

プロフェッショナルコース		
グランプリ	1	100万円、ガラストロフィー
特別審査員賞	1	50万円、ガラストロフィー
銀座ダイヤモンドシライシ賞	1	ダイヤモンドネックレス
優秀賞	3	1万円、ガラス作品

市民向けコース		
最優秀賞	1	5万円、ガラストロフィー
サクラバックス賞 SHOEI group賞 NiX JAPAN賞	各1	ゲストハウス宿泊券等
J MAX THEATERとやま賞	3	映画観賞券、ドリンクチケット

全作品から		
ハハハ賞(吉本興業賞)	1	88,888円



中島信也

〔東北新社エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター/CM演出家〕

1959年福岡県生まれ大阪育ちの江戸っ子。武蔵美術卒。'83演出デビュー。受賞多数。日清食品「hungry?」（カンヌグランプリ）、サントリー「伊右衛門」、AirPAY「オダギリジョーシリーズ」AirWORK「松本人志×山田孝之シリーズ」民放連「違法だよ。あげるくん」などを演出。映画「ウルトラマンゼアス」（'96）「矢島美容室」（'10）監督。



西村まさ彦

〔俳優〕

俳優。12月12日生まれ、富山県出身。近年は映画「大河への道」、映画「バスカヴィル家の犬 シャーロック劇場版」、『お終活 再春！人生ラブソティ』（2024年公開予定）などに出演。テレビではテレビ東京『警視庁考察一課』、テレビ朝日系『必殺仕事人（2023）』、NHKドラマ『育休刑事』、フジテレビ系『この素晴らしい世界』（2023年夏放送）など様々な作品で幅広い役を演じる。また富山県で私塾W.V.A.を主宰するほか市民参加型の演劇ワークショップを各地で監修している。



本木克英

〔映画監督/日本映画監督協会理事〕

1963年富山市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、1987年助監督として松竹入社。森崎東、勅使河原宏、木下恵介などの巨匠に師事し、米国立留学後、プロデューサーを経て、1998年「てなもんや商社」で映画監督デビュー。以後、撮影所システム最後の世代として、多数の娯楽映画やテレビドラマを最前線で監督する。「超高速！参勤交代」と「空飛ぶタイヤ」で二度日本アカデミー賞優秀監督賞受賞。最新作「シャイロックの子供たち」が2023年2月公開。

特別審査員



藤井裕久

〔富山市長〕

1962年4月5日生まれ。工学院大学工学部卒。2011年4月、富山県議会議員に初当選。2021年4月に新富山市長に初当選。「コンパクトなまちづくり」を、今後さらに深化させるため、デジタル技術の導入やビッグデータの活用により、全市域において日常生活の利便性を向上させる「富山市版スマートシティ」の実現に向け、市民重視、現場重視、スピード重視の基本姿勢で各種施策の実施に全力で取り組む。好きな言葉は、「一隅を照らす」。福の成長や四季の移ろいを感じながら、愛犬と自宅近くの農道を散歩することが一番のリラックスタイム。